



## 支えあうまちのキーパーソン ご近所おむすびサポーター

高齢者や子育て世代の方々等が抱える様々な生活の中での悩みや不安。そんな不安は、普段のお付き合いの中での「ふとした一言」にも表れます。本会では、平成 23 年度から、そんなご近所の何気ない声の変化、ちょっとした困りごとに気づき、受け止め、寄り添い、そして時には専門の相談窓口へのつなぎ役にもなる「ご近所おむすびサポーター」の普及を進めています。

### ●メッセージカードが集まっています！

「ご近所おむすびサポーター」の普及、それはご近所のために、できる範囲の手助けや気配りをする人が増えること。本会では、普及の一環として地域の中で催される、各種講座・イベント等で「～ならできるかも」、「～に気を配っています」といった市民の皆さんの体験談をメッセージとして募集しており、これまでに累計2,314枚のメッセージが寄せられています。

### ご近所おむすびサポーター メッセージ

地域の色々なひと・人にアンテナを  
張って、困ってる人がいたら少しでも  
助けられるようにしたいです。

＜市民の方から寄せられたメッセージ＞

### ●相模原市ホームタウンチームも参加！



＜来場者へサポーターの趣旨を説明しています＞

サポーターには、相模原市ホームタウンチーム（市内に活動拠点があり、全国での活躍が期待できるスポーツ団体）も参加しています。

10月30日（日）にギオンスタジアムで開催された、アメリカンフットボールチーム「ノジマ相模原ライズ」の公式戦において「ご近所おむすびサポーター」PRブースを設置。ノジマ相模原ライズの選手から寄せられたメッセージカードを展示！ライズファンの皆様に「ご近所おむすびサポーター」の普及活動を行いました。

## 第 47 回社会福祉大会「市民みんないいひとの日」

第 47 回社会福祉大会を 11 月 5 日（土）市立あじさい会館ホールにおいて開催しました。第 1 部は、表彰と感謝のつどいとしてボランティア活動や地域福祉の推進に貢献された方々、相模原市社会福祉協議会にご寄附や法人賛助会費を納められた方々など 156 人、42 団体の表彰を行いました。

第 2 部はお楽しみコンサートとして「相模原市民混声合唱団」による日本や海外の古典的な合唱曲から現代のポピュラーな作品までの幅広い演奏を楽しんでいただきました。



＜混声合唱の織り成す心温まるハーモニーを披露される合唱団の皆さん＞

## 福祉施設と連携！ボランティアセミナーの取組み

ボランティアセンターでは、ボランティア活動に取り組みたい市民を対象に毎月「ボランティアセミナー」を開催しています。

第8次市社協地域福祉活動計画の重点目標に挙げる「福祉施設の地域福祉への貢献促進」の一環として、年数回、福祉施設を会場としてセミナーを実施しています。

福祉施設開催ならではのカリキュラムとして、会場である施設で活動する先輩ボランティアのお話に加え、活動そのものを体験。セミナー受講者のボランティア活動参加へのきっかけづくりはもちろん、施設を身近に感じていただくことや施設利用者との交流の一助となっています。



＜特別養護老人ホーム「マナーハウス横山台」でのセミナーの一コマ。セミナー受講者もボランティアの方と一緒に折り紙活動に取り組みました＞

## 第5回地域福祉活動計画等推進委員会を開催

10月7日（金）に「第5回地域福祉活動計画等推進委員会」が開催されました。本委員会は第8次市社協地域福祉活動計画に基づく事業等の進行管理を行うもので、今回は、平成18年度より市内22地区の地区社会福祉協議会において取り組まれている「福祉コミュニティ形成事業」の実施状況について意見交換を行いました。「福祉コミュニティ形成事業」は、住民同士で地域の福祉課題（困りごと）を発見、共有、アイデアを出しあいながら解決に向けた仕組みづくりを検討し、実践する事業です。一つの課題を解決するだけでなく、取組を通じて発見された新たな課題への対応や見直しを常に行っていく営みそのものです。相模湖、横山、相武台の3地区の事例を通して、「福祉コミュニティ形成事業」の取組の成果について確認を行いました。地域で困りごとを相談、解決する仕組みづくりである「福祉コミュニティ形成事業」で培われる「地区住民相談支援活動」のさらなる発展を進めるために、現在、城山、田名、相武台の3地区に配置されているコミュニティソーシャルワーカーの22地区への配置拡充や地域と社会福祉施設との連携の促進の必要性について議論が進められています。

## 大学生の実習を受け入れました

本会では、市内や近隣の大学、専門学校などで社会福祉を学ぶ学生を「社会福祉相談援助実習」として受け入れています。実習は、社会福祉士国家試験の受験資格取得に必要な指定科目のひとつで、今年度は9月下旬～11月中旬にかけて大学3年生3名を受け入れました。地区社協・地区民児協の会議や福祉活動などへの参加を通して地域福祉活動について学びました。

特に民生委員・児童委員の皆さんと接し、その活躍に触れる中で実習生は「無償で一生懸命地域のために活動している民生委員・児童委員の皆さんの活動が知られていない」ことについて課題として感じたようです。そのことから、実習最終日には、「未来の民生委員・児童委員を増やすためにできること」をテーマに発表を行いました。具体的には民生委員・児童委員の皆さんの活動が分かりやすくイメージできるような、啓発のためのマスコットキャラクター「みんこちゃん」を作ったのアピールや名称の変更等、学生らしいアイデアが発表されました。



＜「授業では学ぶことのできない、民生委員・児童委員の苦労や、やりがいを学ぶことができました」と活動を振り返る実習生＞

